

鎌倉市在宅生活改善調査の結果概要について

1 調査の目的

第 10 期鎌倉市高齢者保健福祉計画（令和 9 年度から令和 11 年度）の策定に向けて、在宅生活の維持が難しくなっている介護サービス利用者の実態等を把握し、当該期間中における必要な支援やサービスの在り方の検討に向けた基礎資料の一つとするため、ケアマネジャーを対象に、自身が担当する利用者及びその介護者の状況について調査した。

2 調査概要

	令和 7 年度
調査対象者	鎌倉市内に所在する居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護支援事業所、看護小規模多機能型居宅介護支援事業所、地域包括支援センターのケアマネジャー
調査形式	アンケート調査
調査方法	メール送信、市ホームページへの掲載、e-kanagawa 電子申請システムでの回収
調査期間	令和 7 年 12 月 3 日～令和 8 年 2 月 6 日
回収数	74 事業所中 29 事業所（回収率：39.2%）

3 集計結果の概要

集計結果について、主に各回答の順位の傾向や割合に、有意と思われる傾向が見られた問について記載した。（問の中の全ての選択肢を記載しているものではない。）

【国の示す設問】

	令和 7 年度
過去 1 年間の実績 自宅等から居場所を 変更した利用者の行 き先別の人数	住宅型有料老人ホーム…65 人／18.1% 特定施設…51 人／14.2% 介護老人保健施設…41 人／11.4% 特別養護老人ホーム…51 人／14.2% 病院・診療所…68 人／18.9%
過去 1 年間の実績 自宅等から居場所を 変更した利用者の要 介護度別の内訳	要支援…11.8% 支援 1 …7.2%、支援 2 …4.6% 要介護…87.8% 介護 1 …23.9%、介護 2 …16.4%、介護 3 …18.8% 介護 4 …16.4%、介護 5 …12.3%

	令和7年度
現在の利用者の状況 在宅での生活の維持が難しくなっている利用者	問題はない…96.7% 自宅…91.8%、サ高住等…4.9% 維持が難しい…3.3% 自宅…3.1%、サ高住等…0.2%
現在の利用者の状況 家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者	問題はない…98.1% 自宅…93.1%、サ高住等…5.0% 就労継続が難しい…1.8% 自宅…1.8%、サ高住等…0.1%
現在の利用者の状況 在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性	1位 21.6%…「独居」かつ「要介護2以下」 2位 16.0%…「夫婦のみ世帯」かつ「要介護3以上」 3位 13.6%…「単身の子どもの同居」かつ「要介護3以上」 4位 12.0%…「その他世帯」かつ「要介護3以上」 5位 11.2%…「単身の子どもの同居」かつ「要介護2以下」
現在の利用者の状況 家族等介護者の負担になっている介護	要支援1・要支援2 1位 外出の付き添い、送迎等…46.2% 2位 認知症状への対応…38.5% 3位 屋内の移乗・移動…30.8% 3位 その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）…30.8% 3位 金銭管理や生活面に必要な金銭管理…30.8% 要介護1・要介護2 1位 認知症状への対応…52.5% 2位 外出の付き添い、送迎等…42.5% 2位 その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）…42.5% 3位 食事の準備…27.5% 要介護3以上 1位 認知症状への対応…49.2% 2位 日中の排泄…47.5% 3位 夜間の排泄…35.6%
現在の利用者の状況 生活の維持が難しくなっている理由（本人の状態に属する理由）	要支援1～要介護2 1位 認知症の症状の悪化…56.7% 2位 必要な生活支援の発生・増大…53.3% 3位 その他、本人の状態等の悪化…46.7% 要介護3以上 1位 必要な身体介護の増大…77.0% 2位 認知症の症状の悪化…59.0% 3位 その他、本人の状態等の悪化…49.2%

	令和7年度
現在の利用者の状況 生活の維持が難しくなっている理由（本人の意向に属する理由）	要支援1～要介護2 1位 生活不安が大きいから…33.3% 2位 本人が一部の居宅サービスの利用を望まないから…28.3% 3位 その他、本人の意向等があるから…26.7% 要介護3以上 1位 その他、本人の意向等があるから…31.1% 1位 該当なし…31.1% 2位 居住環境が不便だから…19.7% 2位 費用負担が重いから…19.7% 3位 生活不安が大きいから…18.0%
現在の利用者の状況 生活の維持が難しくなっている理由（家族介護者の意向・負担等に属する理由）	要支援1～要介護2 1位 介護者の介護に係る不安・負担量の増大…53.3% 2位 家族等の介護等技術では対応が困難…35.0% 3位 本人と家族等との関係性に課題があるから…31.7% 要介護3以上 1位 介護者の介護に係る不安・負担量の増大…60.7% 2位 家族等の介護等技術では対応が困難…47.5% 3位 家族等の就労継続が困難になり始めたから…32.8%
現在の利用者の状況 本人の生活の維持もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な生活支援	要支援1・要支援2 1位 外出同行（通院、買い物など）…56.3% 2位 配食…43.8% 2位 買い物（宅配は含まない）…43.8% 2位 ゴミ出し…43.8% 2位 見守り、声かけ…43.8% 3位 掃除・洗濯…37.5% 要介護1・要介護2 1位 外出同行（通院、買い物など）…56.8% 2位 調理…50.0% 3位 見守り、声かけ…45.5% 要介護3以上 1位 見守り、声かけ…50.8% 2位 外出同行（通院、買い物など）…42.6% 3位 掃除・洗濯…24.6%

	令和7年度
現在の利用者の状況 特養に入所できていない理由（改善に必要なサービスで、特養を選択した人）	要介護1～要介護2 申込をしていない…41.2% 空きがない…35.3% 希望の施設に空きがない…0.0% 医療処置を理由に入所できない…5.9% その他…17.6% 要介護3～要介護5 申込をしていない…39.4% 空きがない…30.3% 希望の施設に空きがない…3.0% 医療処置を理由に入所できない…6.1% その他…12.1%
現在の利用者の状況 特養に入所できていない理由（改善に必要なサービスで、特養のみを選択した人）	要介護1～要介護2 申込をしていない…75.0% 空きがない…25.0% 希望の施設に空きがない…0.0% 医療処置を理由に入所できない…0.0% その他…0.0% 要介護3～要介護5 申込をしていない…33.3% 空きがない…50.0% 希望の施設に空きがない…0.0% 医療処置を理由に入所できない…16.7% その他…0.0%
現在の利用者の状況 特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由（改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人）	要介護1～要介護2 申込をしていない…54.5% 空きがない…18.2% 希望の施設に空きがない…0.0% 医療処置を理由に入所できない…0.0% その他…21.2% 要介護3～要介護5 申込をしていない…62.1% 空きがない…17.2% 希望の施設に空きがない…3.4% 医療処置を理由に入所できない…3.4% その他…10.3%

【市独自の設問】

	令和 7 年度
① サービス提供事業者を探すことに苦勞していますか。	苦勞している…31.0% やや苦勞している…51.7% 苦勞していない…13.8%
② 利用者または家族は、最期まで住み慣れた地域で生活することを望んでいますか。	はい…89.7% いいえ…3.4%

4 集計結果に関する所感

【国の示す設問】

過去 1 年間の実績 自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度別の内訳	自宅から居場所を変更した方のほとんどは要支援ではなく要介護認定者であり、過去 1 年間に居場所を変更した利用者の割合であるためか、その内訳は要介護 1 の割合が高く、要介護 5 は低い状況となっている。
現在の利用者の状況 在宅での生活の維持が難しくなっている利用者	現在、在宅での生活の維持が難しいと考えている利用者は、自宅及びサ高住等を併せて 3.3%（≒107 人）となっている。一方で、過去 1 年間で居所変更を行った利用者数は 359 人だったため、急な状態変更等により居所を変更せざるを得なくなる状況が多いものと想定される。
現在の利用者の状況 家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者	現在、就労継続上の問題があると考えている利用者の家族等介護者は、自宅及びサ高住等を併せて 1.9%（≒62 人）となっている。前問と同様に、実際に居所変更を行った利用者数から考えるとかなり少ない人数となっている。
現在の利用者の状況 在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性	介護 2 以下の独居の利用者で在宅での生活の維持が難しいと感じている割合が最も高く、次に介護 3 以上で夫婦のみ世帯、単身の子どもの同居と高い割合が続く。同居者に介護者がいることで、要介護 3 以上になるまでの間は在宅での生活を維持できている利用者の割合が比較的高い状況が伺える。
現在の利用者の状況 家族等介護者の負担になっている介護	家族等介護者の負担として「外出の付き添い、送迎等」と「認知症状への対応」の割合が高く、前者は比較的外出する機会が多いことが想定される要介護 2 までで高く、後者は認知症状が進行する要介護 1 以上で最も高い割合となっている。

現在の利用者の状況 生活の維持が難しくなっている理由（本人の状態に属する理由）	いずれの介護度においても「認知症状への対応」の割合が高い状況となっており、また、要介護2までは「必要な生活支援の発生・増大」が、要介護3以上では「必要な身体介護の増大」が、それぞれ割合が高くなっている。
現在の利用者の状況 生活の維持が難しくなっている理由（本人の意向に属する理由）	要介護2までにおいては「生活不安が大きいから」が最も割合が高く、要介護3以上では具体的に挙げられた理由を見ると「居住環境が不便だから」や「費用負担が重いから」が上位の割合となっている。
現在の利用者の状況 生活の維持が難しくなっている理由（家族介護者の意向・負担等に属する理由）	いずれの介護度においても、介護者にとって「介護に係る不安・負担量の増大」と「家族等の介護等技術では対応が困難」が、生活を維持するのが困難となる大きな理由となっており、これらに次いで要介護2までは「本人と家族等との関係性」が、介護3以上では「就労継続が困難になり始める」ことが、生活の維持が困難となる理由となっている。
現在の利用者の状況 本人の生活の維持もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な生活支援	いずれの介護度においても「外出同行（通院、買い物など）」が強く望まれる生活支援となっており、前問で「外出の付き添い、送迎等」を負担と感じる介護者が多かった状況と繋がる。その他に要介護2までにおいては「配食」や「調理」といった食事に関する支援が、要介護1以上においては「見守り、声かけ」が望まれる生活支援となっている。
現在の利用者の状況 特養に入所できていない理由（改善に必要なサービスで、特養を選択した人）	いずれの介護度においても「申込をしていない」が40%程度、「空きがない」が30%程度、「医療処置を理由に入所できない」が6%程度となっている。また、介護3以上では無回答が9%以上あった。
現在の利用者の状況 特養に入所できていない理由（改善に必要なサービスで、特養のみを選択した人）	特養は基本的に要介護3以上でなければ入所できないため、特養が必要なサービスであっても「申込をしていない」は要介護2以下では75%となっている。また、要介護3以上では「空きがない」が50%、「医療処置を理由に入所できない」が17%程度となっており、前問よりも割合が高くなっている。

現在の利用者の状況 特養以外の施設等に 入所・入居できてい ない理由（改善に必 要なサービスで、特 養以外の施設・住ま い等を選択した人）	いずれの介護度においても「申込をしていない」が60%前後と、特養の場合と比べて割合が高くなっている一方で、「空きがない」はいずれも18%程度と特養の場合よりも低くなっており、申し込めば比較的入所・入居しやすい状況が伺える。
---	--

【市独自の設問】

① サービス提供事業者を探すことに苦労していますか。	80%以上のケアマネジャーの方が、サービス提供事業者を探すことに苦労していると感じていることが分かる。
② 利用者または家族は、最期まで住み慣れた地域で生活することを望んでいますか。	約90%の利用者または家族の方が、最期まで住み慣れた地域で生活することを望んでいるが分かる。